

第2回 保安検査に関する有識者会議資料

成田空港の保安検査を取り巻く環境改善の取り組み等について

2020年7月3日

成田国際空港株式会社

名和 振平



Narita Airport

Connecting Japan to the World

成田空港における4本の柱

長期に渡り安定的な保安検査を実現していくために、保安検査員が成田空港での保安検査に誇りと希望を持てる航空保安検査を実現するため、4本の柱で取組を推進している。

航空保安成田モデル4本の柱

①保安検査の円滑化（混雑解消、検査環境改善）

- スマートセキュリティ導入
- 旅客ワンストップセキュリティの導入
- 第3ターミナルインラインスクリーニング化



②保安検査の高度化（最新技術の導入による精度向上、検査員負担減）

- CT機、ETD、AIT等の先進的保安機器の導入



③保安検査の高質化（質の高い検査員の確保、育成、労働環境改善）

- 検査員の待遇改善、採用活動サポート
- 教育/研修の充実化



④保安検査の安定化（財源確保、体制強化）

- 事務委任方式の導入による検査会社の負担軽減等
- 費用負担スキームの見直し



取組事例（2017年度～現在継続中）

労働環境 全検査員対象アンケート

- 成田空港全検査員を対象とした匿名でのアンケートを実施し、給与、待遇、超勤、やりがい等、各カテゴリに関する満足度を調査。
- 各検査員の現状を把握することで、各種取組検討に参考としている。



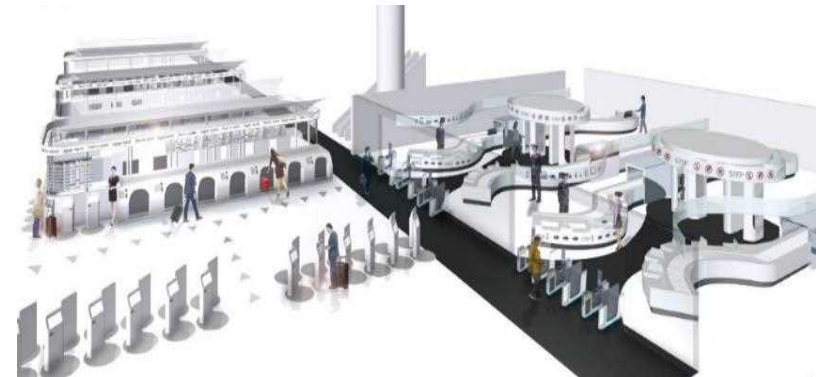
採用支援 採用支援、空港説明会・見学会サポート

- 保安検査会社採用内定者に対して、空港見学会や成田空港概要の説明会を実施。
- 新卒入社オリエンテーションにおいて、AL/NAA/検査会社が協力して、空港で働く魅力をアピール。



スマートセキュリティ 運用改善 検査高度化対応

- T1/T2/T3国際線出発でスマートセキュリティの全面供用開始
- 旅客の搭乗券の有効性を自動判定するPRS（Passenger Reconciliation System：検査場旅客通過確認システム）の運用開始



取組事例（2017年度～現在継続中）

モチベーション向上

スキルコンテスト/ 検査員年末お疲れ様イベント

- ハイジャック検査会社が参加する検査員スキルコンテストの実施
- 全検査員を招待した年末イベントを実施。HJ/受託検査会社が参加し、会社の垣根を越えた交流に寄与。



教育

マナー講習・障害者対応セミナー

- 日常の接遇マナー等をあらためて勉強できるようなマナー講習や聴覚/視覚障害者団体との連携により、障害者旅客の検査方法に係るセミナーを開催。
- 現場検査員が参加し直接学習することで、実業務スキルUPに寄与。



国際業務

海外空港とのワークショップ

- 検査員のモチベーション向上、キャリアパスの構築を目的とし、海外空港と、成田空港検査員の双方が意見交換を行うWork Shopを開催。



事務委任の仕組み（2020年4月～）

<事務委任前>

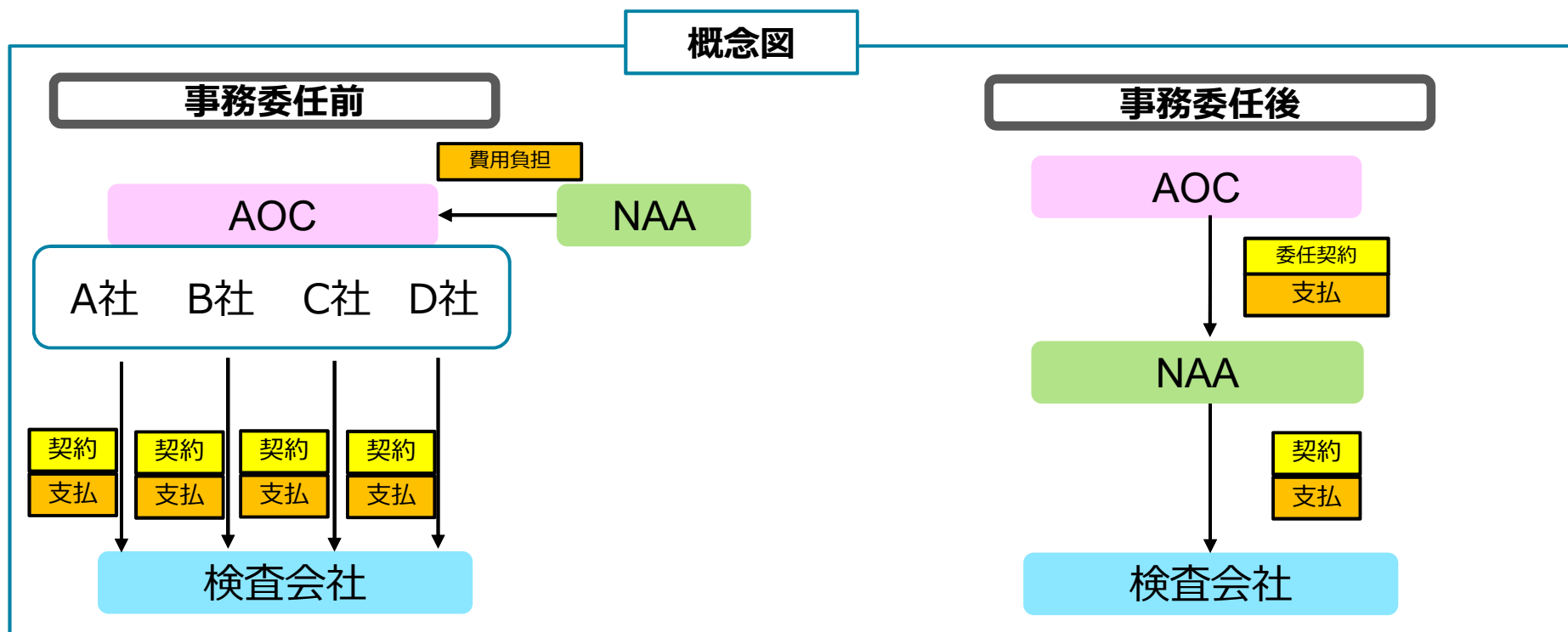
（契約）：各航空会社が検査会社と個別に直接契約。

（費用）：航空保安に係る費用を空港が半額を補助。

<事務委任後>

（契約）：検査会社との契約、検査員のレーン配置等を含む事務について、航空会社がNAAに対し、業務委任（準委任）を実施。NAAは、航空会社からの委任に基づき、検査会社に対し、保安検査業務に関する検査会社への業務委託等を実施。

（費用）：旅客一人当たりの単価に基づき支払い。



事務委任による効果

- 契約関係、費用支払いの複雑さが解消されることで検査会社の事務手続きの負担が軽減される。
- 空港が検査会社との契約に関与することで、空港会社が検査環境整備についてより主体的に取り組める。
- 混雑実態に応じて検査レーンを追加オープンするなど、機動的な意思決定・現場対応が可能となる。
- 費用負担について旅客数に応じた請求となるため、投資の都度、航空会社の負担額は変動しないことから、先進的機器の導入にあたっての合意形成が容易となる。
- 空港内に複数の検査会社がある場合であっても、教育訓練等を通じた検査品質のレベルの均一化、維持が図りやすい。
- 検査会社にとって、検査費用が回収漏れになるリスクが軽減される。